

採集したクラゲのなかから、 別のクラゲが現れた!?

クラゲの傘の内側に 寄生するヤドリクラゲ

取材協力

三宅裕志特別研究員

海洋生態・環境研究部

北海道道東沖広尾海底谷の深度680mでパンディア (Pandea) の仲間とされるクラゲが採集された。クラゲを詳しく観察すると、採集時についた傘の切れ目のなかから直径10mm弱のクラゲの芽が見つかった。最初はそのクラゲの子ども(エフィラ)かと思われたが、どうやら寄生性のヤドリクラゲのポリプであるらしい。ポリプは、一般に海藻や岩などに固着し、無性生殖によってその数を増やすクラゲの生活史のなかの一時期のこと。だが、中・深層の海中には固着する岩はない。そのため、エサを同じくし、浮遊するクラゲの体を宿主として選んだのだろうか。

ポリプはクラゲの傘の内側に、まるでブドウの房のように付着していた。その数は100以上。無性生殖でその数を増やしていったに違いない。ひとつひとつをよく見ると、キノコのように中心に柄があるものや、その柄が短くなったもの、さらに傘から触手が伸びているものなどが確認された。

適切なエサが見つからず、飼育することはできなかったが、おそらくカッパクラゲの仲間ではないかと考えられている。



